

神奈川県と博覧会～レトロとモダンの歴史旅～ 展示目録

令和7年7月18日(金)から9月28日(日)まで

神奈川県立公文書館 展示室

番号	資料名	内容等	年代	資料ID等
<h2>第1章 近代の博覧会と神奈川県</h2>				
1-1	〔(ウィーン)博覧会ニ関スル各地方物品差出方等事務取扱心得〕	明治6年(1873)に開催された、ウィーン万博(オーストリア)への出品説明書。ここでは同万博の意義を「(各國の)学術工芸の進歩、政經の要旨をあらわすことにより、人々が相互に交易するのに便利となり、より豊かな生活に益がある」と謳われています。	明治5(1872)年	2199525026
1-2	御触書	明治5年1月に開拓使(当時の日本の官庁)から神奈川県令兼任外務大丞陸奥宗光あてに、さらに神奈川県庁から「程ヶ谷宿始小仏宿迄右宿村役人」あてに通達されたウィーン万博に関する手続き関連書類。国内外の博覧会は、国→道府県→各郡・町村へと出品を促す通達が出されていました。	明治5(1872)年	2200450552
1-3	〔布達(高橋由一・奥太利博出品画下図の作成につき)〕	高橋由一は幕末から明治中期の洋画家で、横浜滞在中の英人画家ワーグマンから油絵を学びました。本資料は彼がウィーン万博へ出品する富嶽油画制作につき、神奈川県の眺望の良いところで下図を作成するので、承知おくようにとの博覧会事務局からの通達です。	明治5(1872)年	2201512639
1-4	米国博覧会出品物売捌方 太田万吉殿江委託致候節 当方より差出候書面之写	米国フィラデルフィア万博に磁器・陶器を出品した宮川虎之助が、現地で出品物の売り捌きを委託した太田万吉にあてた約定書の写し。万吉は東京の指物師で、当万博にも出品しており、海外事情にも通じていたようです。原価目録をもとに、原価の平均二倍で売却すること、総原価の半分以上売り上げたら、総売上高の二割を手数料として万吉に払うなどといった取り決めが記されます。	明治9(1876)年	2199301704
1-5	米国博覧会出品表	横浜本町三丁目の鈴木保兵衛が、米国フィラデルフィア万博に出品したものの目録。細工の施された花瓶や花生のほか、菓子鉢や人形の置物などの陶磁器計43点が出品されています。列品会場にて即売されるため、代金(原価額)も記入されています。博覧会場では展示品は売り渡すことができないので(売約のみ)、別に売店を出して商品を販売していました。	明治9(1876)年	2199301709
1-6	博覧会出品売品記	鈴木保兵衛の米国フィラデルフィア万博出品物の売上勘定書。太田万吉が、委託販売をしています。陳列品(売約)と売店の売上、その合計米札688弗(ドル)8分が総売高として勘定されています。ちなみに明治10年の為替レートは、1ドル=1.040円でした(『日本銀行百年史』)。	明治10(1877)年	2199301710
1-7	〔米国博覧会出品物原価等一覧表〕	鈴木保兵衛の米国フィラデルフィア万博出品物の原価表。展示列ごとに記載され、箱などの梱包費と運送費も計上されています。	明治10(1877)年	2199301711
1-8	〔米国博覧会出品物の内 ニューヨーク・ボストン にて販売の分内訳〕	太田万吉は、鈴木保兵衛の委託によりフィラデルフィア万博出品物の売れ残り品のうち、人形3躯をニューヨークで店頭販売し、砂糖入れ1対をボストンで競売にかけ売却しました。本文書は、その売上げから諸雑費等を差し引いた金額を、保兵衛に渡した際の証書です。	明治12(1879)年	2199301708
1-9	勧業博覧会出品奨励演説書	明治10年開催予定の、第一回内国勧業博覧会(会場上野公園)への出品を奨励する目的で作成された文書。内容は「よろずの物を一ヵ所に集め、それらを調査・評論することにより農工業を励まし、商売の利便をはかること」が当博覧会の本旨として、その意義を説いたものです。	明治9(1876)年	2199521350
1-10	〔通達〕	第一回内国勧業博覧会の出品説明書のひな形。ここでは海産物の出品にあたり、漁具の名称・大きさ・仕掛け時の様子の図・対象魚種とその図といった情報が求められていました。	明治9(1876)年	2201042461

番号	資料名	内容等	年代	資料ID等
1-11	明治10年内国勧業博覧会出費看護費の件（『明治14～15年 諸要書類』）	出品者は、出品物元価の割をもって「看護費」を納めることになりました。これは出品展示物の警備人等の費用という意味です。	明治10 (1877)年	1199402163
1-12	博覧会規則（『御布告達留』）	明治14年の第二回内国勧業博覧会の前年4月、旅人宿規則が県令野村靖により布達されます。特に第七条に単身の旅人であっても、理由なく宿泊を断ることを禁じ、病人等が出た場合は保護することとあり、その但し書きに外国人を止宿させる際の心得は従前通り（日本人同様の保護）にするようになるとあります。この時期、京都では明治4年の第1回にはじまる恒例の京都博覧会において、外国人向け案内板、英字パンフレット配布など、インバウンド対策が進められていて、神奈川県でも同様の状況が進行していたと思われます。	明治13 (1880)年	2199310019
1-13	博覧会布達 明治9年	博覧会場における売店の規則も定められます。博覧会の会期中は、展示品の売買契約はできても、その場で購入者に商品を引き渡せないので、売主側も入金が遅れることになります。売店を設けて販売することで、スムーズな取引が行えるようにしていました。	明治13 (1880)年	3199369328
1-14	第二回内国勧業博覧会 有功賞牌	津久井郡佐野川村の吉村宗太郎は、第二回内国勧業博覧会に馬鈴薯（ジャガイモ）を出品、有功賞牌を獲得しました。その理由は、「外国の良種を移植して、多額の佳品を産出した。もって平生の勉励を見る。もし、ますます培養に注意すれば、ついに洋饌の需要を充たすに至らん。その有功嘉賞すべし」、つまり増加する外国人向けの洋食材を、国内で移植生産する功が認められたのです。	明治14 (1881)年	2200445444
1-15	神奈川県公報〔明治〕第207号	第三回内国勧業博覧会開催にあたって、県は県委員が諸事を取り扱うが、各郡区役所においても出品の勧誘をすること、事務整理のため郡役所書記のなかから1、2名を担当者として、その人の名前を本庁へ届け出るようにと通達しています。内国博への出品勧誘だけでなく、事務分担などにも地域社会が参画することで、博覧会のすそ野を広げようとしていたと思われます。	明治21 (1888)年	5188800127
1-16	第三回内国勧業博覧会農産物暨農具調査表（『農談録 甲号』）	橘樹郡農会は、第三回内国勧業博覧会に特派委員として飯田快三を派遣し、日本各地の農産物や農具の出品物のうち、重要なものを調査した記録。快三は、農産物の地域、土質、肥料の種類や農具（場合によっては挿絵を入れて）の使用方法など、事細かに記録しており、博覧会における農村の関心点・関心度がうかがわれます。	明治23 (1890)年	2199301422
1-17	第三回内国勧業博覧会褒状	津久井郡佐野川村吉村宗太郎は、前回に続き第三回内国勧業博覧会でも瓜哇薯（ジャガイモ）を出品、褒状を授与されました。その理由は、「品質形状ともに佳良なり。すこぶる嘉すべし」で、前回より品質形状点で改良された様子がうかがわれます。	明治23 (1890)年	2200445474
1-18	〔勧業博覧会出品許可書〕	神奈川県から足柄上郡谷ヶ村の武尾弥十郎に出された、第四回内国勧業博覧会における第三部二十九類の出品許可書。第三部二十九類というのは「木竹林其他ノ産物」という分野で、出品目録によれば弥十郎は炭を出品していました。	明治27 (1894)年	2200201068
1-19	第374号 本県下ヨリ京都市迄直路往復汽車船舶賃金割引ノ証	京都で開催の第四回内国勧業博覧会の出品人武尾弥十郎に対し、神奈川県から会場の京都市までの往復汽車・船舶賃の割引証が発行されました。当時は出品人に対して、こうした補助金が県から下されました。	明治28 (1895)年	2200200066
1-20	〔辞令〕	三浦郡書記伊東匡義氏に、同郡役所が第五回内国勧業博覧会事務員を命じた辞令。さきに紹介した1-15の神奈川県公報〔明治〕第207号にあるように、郡役所書記が博覧会事務員に任命されたのでした。	明治35 (1902)年	2201042239
1-21	神奈川県公報〔明治〕第995号	「第五回内国勧業博覧会出品農産物撰抜会開催ノ件」の第一条で、出品すべき農産物を米・大麦・小麦・穀麦・大豆・小豆・繭と限定して、それらのなかから、選抜会にて良品を出品することとしています。農村部では、品質改良競争がはげしくなっていたものと思われます。	明治35 (1902)年	5190200043

番号	資料名	内容等	年代	資料ID等
1-22	第五回内国勧業博覧会への出品許可状	津久井郡日連村の岡部俊三（養蚕業）が、第五回内国勧業博覧会出品の許可を得たものです。	明治35 (1902)年	2200451085
1-23	第五回内国勧業博覧会場内明細図	第五回内国勧業博覧会大阪会場の案内図。	明治36 (1903)年	2200447300
1-24	神奈川県公報〔大正〕第129号	神奈川県が博覧会へ参加する際には、博覧会協会（現在の実行委員会に該当）が結成されます。東京大正博覧会においても「東京大正博覧会神奈川県出品協会」が設立され、同会規則の第16条に、本会の目的は出品の勧誘・奨励などとあります。	大正2 (1913)年	5191300107
1-25	東京大正博覧会美術館ト演芸場之図	東京大正博覧会の美術館と演芸場の賑わいを描いた案内図。観覧者のなかには、衣装から西洋人男女・家族と思われる姿も描かれています。	大正3 (1914)年	2201102066
1-26	神奈川県要覧	東京大正博覧会神奈川県出品協会が作成した神奈川県要覧。同協会が収集した情報などから、こうした刊行物が作られたのでしょう。特に産業にかかるデータは、博覧会を通じて収集されたと思われます。このなかには「横浜港輸出入品番付」もあり、見るものを楽しませてくれます。	大正3 (1914)年	2200202256
1-27	〔東京大正博覧会絵ハガキ〕	第1・2会場を中心に、台湾館や博物館会場（現東京国立博物館）などが映されています。	大正3 (1914)年	2200841069 2200841068
1-28	東京大正博覧会神奈川県出品協会報告	東京大正博覧会にて、神奈川県出品者のうち受賞者の一覧が掲載されています。多種多様な出品物のうちでも、農産物を中心に戸物や養蚕・製糸関連など、神奈川県の主要とされてきた産業が多数を占めています。	大正3 (1914)年	3199351915

第2章 昭和前期と終戦直後の博覧会～震災と戦災からの復興～

2-1	大正震災写真集	関東戒厳司令部(陸軍)が出した関東大震災の写真集です。「横浜市附近火災地域及警備隊並救護機関配置要図」からは、主として横浜港沿岸部(図中の網掛け部分)で火災が発生していたことがわかります。この12年後の復興記念横浜大博覧会で会場となった山下公園は、これらの瓦礫の処分場を埋め立てて建設されたのでした。	大正13 (1924)年	3199351769
2-2	大震災記念写真帳／大正12年9月1日	神奈川県が出した関東大震災の写真帖です。巻頭の写真は、震災直後に地蔵坂上(横浜市中区石川町)から映した横浜市の光景です。手前には石川町・元町、中村川を挟んで横浜の中心街が見えます。震火災によりほとんどの建物が倒壊・焼失していたことがわかります。	大正12 (1923)年	3199502870
2-3	昭和9年 11月追加議案原稿 (昭和6. 7. 8. 9年4ヶ年)	昭和6～9年度における神奈川県会の議案原稿綴です。昭和9年度の追加予算に関する議案原稿類からは、復興記念横浜大博覧会に7万円の補助金を県から支出する議案が出されたことがわかります。	昭和9 (1934)年	1199402896
2-4	昭和10年 県参事会議案・諮問案原稿	昭和10年における神奈川県参事会の議案・諮問案原稿綴です。同年度の追加予算に関する議案には、始政40周年記念台湾博覧会(同年10月開催)に対する補助金について審議するにあたって作成された、それまでの博覧会に対する県の補助金額の一覧表が付されています。表の最左列には復興記念横浜大博覧会に関する表記が見えます。	昭和10 (1935)年	1199403113
2-5	復興記念横浜大博覧会経過概要	復興記念横浜大博覧会の開催が公表された1934年2月28日から、開会式が行われた1935年3月27日までの経過概要をまとめた資料です。このほか、博覧会の会場内に設置された各パビリオンの建坪や、博覧会への参加団体・会社等も記されています。	昭和10 (1935)年頃	2600900018
2-6	復興記念横浜大博覧会要覧	復興記念横浜大博覧会の開催期間中に発行された「画報と案内書を兼ねた」資料です。開会式の様子や、迎賓館・正門のほか28か所以上に及ぶ各パビリオンの説明が、写真付きで記されているため、博覧会の雰囲気をうかがうのに好適な資料と言えます。	昭和10 (1935)年	2600900014

番号	資料名	内容等	年代	資料ID等
2-7	最新実測番地入新大横浜市全図（封筒付き）	復興記念横浜大博覧会協賛会が発行した横浜市全図です。第三次市域拡張(1927年4月)を経た、鶴見・神奈川・保土ヶ谷・中・磯子の5区からなる横浜市が描かれています。博覧会会場である中区山下公園は赤色で着色されており、地図左下には「会場配置図」が付されています。	昭和10 (1935)年	2600900007
2-8	本館・附設館入場券、景品引換券	右から順に、復興記念横浜大博覧会の本館の入場券、附設館の入場券、景品引換券が連なっています。本来であれば、それぞれの券を利用した際に切り取っていたはずですので、切り取らないまま各券が残されているのは珍しいものと思われます。景品引換券の裏面には、「当籤発表 昭和十年二月十日」と記されています。	昭和10 (1935)年	2201513302
2-9	等外景品（絵葉書2枚、封筒付き）	復興記念横浜大博覧会の景品で、会場敷地となった山下公園の絵葉書1点と、会場正門の絵葉書1点です。特に「分離派様式の数十尺の大建築で、銀、朱、金などを主色とし、夜はネオンの五彩華やかに」開いたという正門の絵葉書は、その色彩が鮮やかに表現されています。 ※「」内は『復興記念横浜大博覧会要覧』(展示資料2-6)より引用。	昭和10 (1935)年	2600900019
2-10	記念絵葉書5枚（封筒付き）	復興記念横浜大博覧会協賛会発行の絵葉書で、「横浜開港当時の風俗」「みなと」「伊勢佐木町通り」「安政元年の横浜村」「三溪園」など、横浜の歴史や名所にまつわる絵が描かれています。画筆者はいずれも、鳥観図絵師として名をはせた吉田初三郎(1884-1955年)です。	昭和10 (1935)年頃	2200445724
2-11	復興記念横浜大博覧会神奈川館出品事務報告書	神奈川県商工協会が発行した報告資料です。特設館の一つである神奈川館の建設経緯や出品物・出品者、同館経営にかかった経費などが記されています。同館には「入口近くにモデル人形群を使用し婦人の服飾品を見せ、其れより内部には流線型のケースを配置して整然たる陳列をなす、館内中央には県下の産業と観光とを表した大ジオラマを背景に休憩所を設け」(p.16)たようです。	昭和11 (1936)年	3199351917
2-12	横浜商工月報／4号～9号（昭和10年下期）	横浜商工会議所が発行した資料の合本です。第4号には、復興博終了に際して開催された、協賛会役員会総会における協賛会長兼横浜商工会議所会頭・有吉忠一の挨拶の速記録が掲載されています。開催期間中、横浜市民が、「田舎」から博覧会の見物に来た人を案内したり、町内で提灯や旗を出して博覧会を盛り上げたりしていたことを振り返っています。	昭和10 (1935)年	3199327425
2-13	昭和11年 県参事会議案・諮問案原稿（其の二）	昭和11(1936)年度における神奈川県参事会の議案・諮問案綴です。同年度の追加予算に関する議案原稿類からは、名古屋汎太平洋平和博覧会(昭和12年開催)に県が負担金を拠出して神奈川県特設館の建設を構想していたこと、その動機の一つに復興博での愛知県特設館(名古屋館)の盛況があったことなどが読み取れます。	昭和11 (1936)年	1199403151
2-14	日本貿易博覧会記念写真帳	占領期の昭和24(1949)年3月15日～6月15日、GHQの許可を得て、神奈川県・横浜市主催の日本貿易博覧会が開催されました。この資料は、その翌年に博覧会事務局が発行した記念写真帳です。会場や各パビリオン、博覧会の運営組織員の写真等が掲載されています。巻末には、「日本貿易博覧会回想」として、博覧会の企画経緯や開催要項等が記されています。	昭和25 (1950)年	3199352707
2-15	〔日本貿易産業博覧会資料 1949〕	日本貿易博覧会の開催にあたって作成された文集「日本貿易博覧会」です。この博覧会の趣旨は、「わが横浜が全国を代表して日本経済の再建と国際貿易の振興に寄与せんがため、國の内外を問わず、産業文化の粹をあつめ、普く供覧する」(横浜市長・石河京市)というものでした。	昭和24 (1949)年頃	3199606837
2-16	〔日本貿易産業博覧会資料 1949〕	日本貿易博覧会の開催にあたって発行された英語版パンフレット『JAPAN FOREIGN TRADE FAIR 1949』です。この資料では、日本貿易博覧会が「FIAR OF THE LARGEST SCALE HELD IN ASIA SINCE THE END OF THE WAR」すなわち「戦後のアジアにおける最大規模の博覧会」と評されています。	昭和24 (1949)年	3199606837

番号	資料名	内容等	年代	資料ID等
2-17	〔日本貿易産業博覧会資料 1949〕	神奈川県・横浜市の日本貿易博覧会の翌年3月15日～6月15日に、兵庫県・神戸市の主催で開催された、日本貿易産業博覧会の『実施要綱』です。横浜と同様、開港都市として発展し、戦争末期には空襲を受けた神戸でも、「貿易並びに産業の振興と文化の発展を図らん」と博覧会が開催されたのでした。	昭和25 (1950)年	3199606837
2-18	日本貿易博覧会 記念写真帳	日本貿易博覧会の40枚の写真が貼付された写真帳です。作成者は不明ですが、収受印・蔵書印から、博覧会の翌年以降に神奈川県議会図書室にて保管されていたものと思われます。比較的鮮明な写真のため、博覧会を見物する人々の生き生きとした表情まで読み取ることができます。	昭和25 (1950)年頃	3202207727

第3章 高度経済成長期から近年までの博覧会

3-1	皇太子殿下開港百年祭行啓関係綴	昭和33年には横浜開港百年を記念し、展覧会等の催しが行われました。本資料は皇太子殿下(現在の上皇陛下)の行啓にむけた、神奈川県による準備書類です。	昭和33 (1958)年	1199412005
3-2-1	昭和43～45年度 日本万国博覧会関係会議・1	1年後に控えた大阪万博開催に向けて、各都道府県ではミス万国博を募集しました。採用者は会場にて案内役を務めます。月給は「5万円程度」とのこと。	昭和44 (1969)年	1200215970
3-2-2	【県広報課撮影写真】ミス万国博 採用試験、ミス万博決まる 他	ミス万国博への応募者には筆記試験(一般教養、実用英語)、面接試験(英会話等)が行われました。合格者は、ミス万国博として8名、地方自治体館スタッフとして1名でした。	昭和44 (1969)年	4199400735 4199400739 4199400922
3-2-3	昭和43～45年度 日本万国博覧会関係会議・2	開催が近づくにつれ、様々な関連イベントが行われ、また、その内容や会場の準備状況等を伝える情報誌も多く出版されました。	昭和44 (1969)年	1200215970
3-2-4	【松本喜美子資料】EXPO'70 日本万国博 指導のために	文部省では大阪万博に関する教師用指導資料を発行します。「朝会・儀式等における講和や、各種発表会、学芸会、映画鑑賞会などの行事の中に日本万国博の内容を計画的に取り入れることが考えられる」とされています。	昭和45 (1970)年	2601003024
3-2-5	昭和43～45年度 日本万国博覧会関係会議・3	一般向けの軽易な案内パンフレット「エキスポガイド」です。サトウサンペイによる表紙をはじめ、ページごとに多様な方によるイラストで構成されています。	昭和45 (1970)年	1200215970
3-2-6	昭和45年度 行啓・お成り・献上	昭和45年7月、天皇陛下及び皇后陛下が大阪万博の視察として行幸啓されるため、国鉄は東海道新幹線のお召列車を東京駅＝新大阪駅で編成します。	昭和45 (1970)年	1200418207
3-2-7	昭和43～45年度 日本万国博覧会関係会議・4	こちらは大判のパンフレットです。前年に成し遂げられた「アポロ8号の月周回飛行の壮挙」に触れており、開催テーマである「人類の進歩と調和」にも即したデザインが感じられます。	昭和45 (1970)年	1200215970
3-2-8	【県広報課撮影写真】万博県の日と会場風景、万博会場とミス万博の活躍	会場には地方自治体館が設置され、都道府県ごとに自地域を担当する期間も設けられました。写真は「神奈川県の日」(昭和45年8月26～29日)のステージ風景です。	昭和45 (1970)年	4199401168 4199401037
3-2-9	日本万国博覧会公式記録	開催2年後に発行された3部冊の公式記録資料です。合計1,800ページ、総重量8.5kgと、持つのも大変なボリューム。	昭和47 (1972)年	3200406287
3-3-1	市政100年「横浜・丘と海の祭り」実行計画案	横浜市制100年となる1989年に記念事業を実施すべく、「『横浜・丘と海の祭り』100人委員会」では本資料を作成し、「MM21地区で世界的スケールのビッグイベントを」と博覧会の開催を提案しています。	昭和60 (1985)年	3199327236
3-3-2	YES'89 横浜博覧会 神奈川県パビリオン基本計画	神奈川県は、YES'89に県パビリオン「かながわ愛ランド」を出展し、400席規模のアイマックス映像シアターを運営しました。本資料はその基本計画書です。	昭和62 (1987)年	3201300429
3-3-3	会場計画基本設計図 (第3次マスタープラン)	埋め立てが進行中で土地の形が現在とは異なっています。また、隣の埠頭と繋がる橋が予定段階です。会場までは、横浜そごう裏手からゴンドラで移動できました。その下には横浜機関区の線路が広がり、まだ残っていた転車台と車庫も描かれています。	昭和63 (1988)年	3199800581

番号	資料名	内容等	年代	資料ID等
3-3-4	横浜博覧会	翌年の開催に向けた予告リーフレットです。 バブル期らしく、蛍光色を使った派手なデザインが印象的です。	昭和63 (1988)年	3200907825
3-3-5	YES'89/1-10号	開催 2 年前から数か月おきに発行された無料情報誌です。 開催 4 カ月前の発行号では、建設中の風景が表紙となっています。現在は正面にマーケイズが建ち、その向こうにパシフィコ横浜やインターモンチネンタルホテルを望む方向で撮影されています。	昭和63 (1988)年	3199327240
3-3-6	横浜博覧会基本計画 YES'89	会場内の移動手段として HSST(浮上式リニアモーターカー)が設置され、約500mを時速60kmで走行しました。 会場外では、帆船日本丸の前から山下公園に達するルートを横浜博覧会臨港線としてディーゼル列車が運行しました。	昭和64 (1989)年	3199327235
3-3-7	横浜博覧会・会場計画と建設の記録	上下水道管や通信ケーブル等を収容する共同溝、地域全体の冷暖房を実現する熱供給システムなど、開催後に建築される恒久施設への提供も見据えた、みなとみらい地区のインフラ整備が行われました。	平成元 (1989)年	3199327238
3-3-8	横浜・丘と海の祭り/市制100周年・開港130周年記念事業公式記録	半年間の開催により、1,333万人が来場しました。当時、神奈川県内の学校に通っていた方は、遠足として見に行った経験を記憶されているかも知れませんね。	平成元 (1989)年	3199612171
3-3-9	横浜博覧会 そのデザインとアーバニティ	開催中は行列が絶えなかった直径100mの大観覧車「コスモクロック21」。YES'89の終了後も引き続き稼働し、若干の移設を経て、36年を経た現在もみなとみらい地区の象徴となっています。	平成元 (1989)年	3199327241
3-4-1	第9回全国都市緑化かながわフェア公式記録 等	平成4年に全国都市緑化かながわフェア(グリーンウェーブ・相模原'92)が県立相模原公園及び隣接する市立相模原麻溝公園を会場として開催されました。	平成4 (1992)年	3199359625
3-4-2	第9回全国都市緑化かながわフェア 交通対策調査報告書	多くの来場者数が想定されながら、会場付近には鉄道駅が無いため、神奈川県では様々な交通対策を検討しています。本ページは、会場へ向かう方面別の予想値です。	平成4 (1992)年	3199807995
3-5	横浜開港150周年記念事業 公式記録 等	横浜開港150周年となる平成21年に「開国博 Y150」が開催されました。市内の複数地域が会場となり、更に街中の無料イベントも多く実施されたため、偶然立ち寄った先で参加された方もいらっしゃるかと思われます。	平成21 (2009)年	3200900299 3200901259
3-6	GREEN × EXPO 2027	横浜市旭区と隣の瀬谷区にまたがる旧上瀬谷通信施設にて、令和9(2027)年3月からGREEN × EXPO 2027が開催されます。最上位クラスの国際園芸博覧会で1500万人の参加者が見込まれています。	令和7 (2025)年	-----